

ファイナルレポート

(日本語抄訳版)



2022年12月2日

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

VALVE WORLD EXPO、デュッセルドルフで4年ぶりの開催

工業用バルブ・継手の国際会議の再スタートも好調

LG ターミナル、ガス貯蔵施設、風力タービン、パイプライン、水道管 — どの産業分野にとっても欠かせない工業用バルブと継手の国際見本市「VALVE WORLD EXPO 2022」が2022年11月29日～12月1日、デュッセルドルフにて開催されました。実に4年ぶりの開催であり、国内外のキープレイヤーたちが待ちわびた再開となりました。

3日間にわたり、29か国・388社の出展者はホール1と3でその技術力を披露し、1万2,000㎡に革新的な機械、プラント、部品、システム、ポンプなどが展示されました。

またメッセ・デュッセルドルフのサステナビリティキャンペーン「ecoMetals トレイル」、2日間にわたる EXPO フォーラム、Valve Stars Awards の発表などの多くの初公開イベントのほか、賑やかな出展者パーティーが活気あるメッセを盛り上げました。さらに KCI が主催する同時開催の国際バルブワールド会議では約70の講演、セミナー、ワークショップが行われ、ホール1の会議室は約400名の参加者で埋め尽くされました。

2022年、VALVE WORLD EXPO は再び業界の推進力、さらに国際会議のプラットフォームとしての役割を果たしました。回答者の50%が、現在のトレンドや情報を見つけられたと回答しました。

メッセ・デュッセルドルフのベルント・ヤブロノフスキは「高さ1mのボールバルブからご苦笑のマイクロバルブまで、現在の課題に対する革新的な技術すべてを見本市会場で体験できました。」と喜びのコメントを寄せています。

4年ぶりの開催となった今回のメッセでは、業界関係者同士の交流がいかに重要であるかが示されました。石油・ガス、化学・石油化学、発電所技術、海洋・オフショア、水・排水管理、自動車、機械工学、製薬・医療などのエキスパートがデュッセルドルフに集まり、このメッセが現在の社会情勢に適った見本市であることを証明しました。

「私たちの業界では、見本市のような対話の中で提案されるイノベーション、新製品・プロセスに価値が置かれます。私見ですが、存在感のあるメッセは B2B コミュニケーションにおいて今後も一定のポジションを保っていくでしょう」と、AS シュナイダーグループの製品管理・イノベーション責任者 トーマス・ヴァイスシュー氏はメッセの成功を認めながら付け加えます：「ヨーロッパにとって、VALVE WORLD EXPO は工業用バルブに関する重要な見本市です。主な意思決定者が集い、業界の未来のテクノロジーを知るための場所がここなのです」。

3 日間の開催期間中、80 か国以上からデュッセルドルフに来場した国外ビジターのうち、意思決定者が占める割合は 79%と非常に高いものでした。バルブや継手のユーザーに加え、継手メーカーや継手の商社、エネルギー供給会社の参加も見られました。特にインド、米国、カナダ、日本、韓国、サウジアラビア、南アフリカ、北アフリカ諸国からの国外来場者が多く、ヨーロッパから訪れる多くのビジターとともに国際色豊かなメッセを形づくっています。また、94%の回答者が 2 年後に再びデュッセルドルフを訪れることを計画しています。VALVE WORLD EXPO ならびに共催の国際会議は、2024 年 12 月 3-5 日に開催予定です。

VALVE WORLD EXPO のニュースリリース（オリジナル）は[こちら](#)からご覧ください。



© Messe Düsseldorf, Constanze Tillmann

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：富田

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニ ガーデンコート 7F

TEL: 03-5210-9951 Mail: mdj@messe-dus.co.jp

VALVE WORLD EXPO ウェブサイト（日本語）：<https://valveworld.messe-dus.co.jp/>